

学校教育目標	「心 ひびかせ 川北っ子」 ◇進んで学習に取り組み、自分の考えを深め、主体的に課題を解決する力を育てます。【知】 ◇思いやりの心や感謝の気持ちを持ち、自他を大切にすることを育てます。【徳】 ◇規則正しい生活を心がけ、心身ともに健康でたくましく生きる力を育てます。【体】 ◇まちとのかかわりを大切にし、地域や社会のために行動する力を育てます。【公】 ◇自他の違いを受け止め、人とのかかわりを通して広い視野で共に生きていく力を育てます。【開】			
	創立 54 周年 児童生徒数: 613 人	学校長 工藤然理 主な関係校: 名瀬中学校	副校長 栗栖光美	2 学期制 一般学級: 19 個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	名瀬中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<主体的にかかわる力> <協働する力> <自他を大切に思える力>	名瀬中学校 名瀬小学校 川上北小学校	自他を認め合い、友達や社会とかかわりながら、課題解決に向けて、主体的に学び続ける子 ○ラログで合同授業研究会や各種研修会を開催し、育てたい子どもの姿や各学校の取組を共有して教育活動に生かす。 ○友達や地域と豊かに関わりながら問題解決的、協働的に学習過程を大切に授業改善に努める。 ○支援が必要な児童・生徒について情報交換を行い、より個に寄り添った支援を小中双方で協働して取り組む。

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、人とのかかわりを通して、主体的に教育活動に取り組む学校にします。 ・自分の思いを表現する力を身に付けることができるよう、子どもの学びの質の向上に努めます。 ・一人ひとりが安心して豊かな学校生活を送れるよう自己肯定感を育み、主体性を大切に豊かな心の育成に努めます。 ・運動に親しみながら健康を適正に管理する能力を育み、継続的に運動に取り組むことでけがの予防に努めます。 ・まちの「人」とのつながりを意識し、まちとのかかわりを通してまちを愛する心を育てます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td style="background-color: yellow;">授業力向上</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>研究推進委員会</td> </tr> </table>	知	授業力向上	担当	研究推進委員会	①目指す子どもの姿を共有して授業改善に取り組み、国語科を中心に、学習に主体的に取り組み、お互いの考えを伝え合うことを通じて、自分の考えを広げ、表現する力を育成する。②40分制授業の中で身に付ける力を明確にして単元を構成していくこと、また、学習タイムを教育課程に位置づけることによって学習内容の定着を図る。
知	授業力向上				
担当	研究推進委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td style="background-color: yellow;">豊かな心</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>人権福祉・たてわり委員会</td> </tr> </table>	徳	豊かな心	担当	人権福祉・たてわり委員会	①たてわり活動やドレミファ集会で、他学年同士のつながりを大切にすることで、自他の違いを認めたり思いやりを持つ心を育てる。②子どもの社会的スキル横浜プログラムを積極的に取り入れることによって自己肯定感を養う。③道徳の学習や人権朝会の時間を通して、互いの違いやよさを認め合う心を養う。
徳	豊かな心				
担当	人権福祉・たてわり委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td style="background-color: yellow;">健やかな体</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育部・健康安全環境</td> </tr> </table>	体	健やかな体	担当	体育部・健康安全環境	①体育科や保健・食育指導を通して運動に親しむ資質能力と健康を適正に管理する能力を育てる。②スポーツリズムトレーニングを通して、けがを予防するための筋力や体力の向上を目指す。③「川北体操」や「なわとび集会」等を通して、楽しく体を動かすことの大切さと楽しさを感じ、日々の生活に結び付けられるようにする。
体	健やかな体				
担当	体育部・健康安全環境				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公 開</td> <td style="background-color: yellow;">自分づくり教育 (キャリア教育)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特活部・総合的な学習の時間</td> </tr> </table>	公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	担当	特活部・総合的な学習の時間	①教育活動の中で一人ひとりの個性を認め、「自分らしさ」を大切にすることで、自己肯定感を育む。 ②他者とかかわりの中で自分の思いを表現し、自分たちで学びを作っていく力を身に付ける。 ③「自分づくりパスポート」で学校生活を振り返ることによって、自分の成長の自己評価や次へのめあてをもてるようにする。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)				
担当	特活部・総合的な学習の時間				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">いじめへの対応</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導委員会</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	児童指導委員会	①いじめの定義を職員全体で再確認し、児童の心情に寄り添うことを徹底する。②月1回定期的にいじめ対策防止委員会を実施し、SCやSSWも参加することによって多面的な視点からいじめの経過確認、再発防止、未然防止に努め、組織的に対応する。③年2回のYP、年3回の児童アンケート、年3回の職員研修を実施することでいじめを見逃さない体制づくりをする。
いじめへの対応					
担当	児童指導委員会				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">人材育成・ 組織運営(働き方)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・メンターチーム</td> </tr> </table>	人材育成・ 組織運営(働き方)		担当	教務部・メンターチーム	①「持続的な学校のあり方を探る実践モデル校」として、「質の高い学び」と「持続可能な学校」の実現に向けて、振り返りと見直し、他校と情報交換をしていく。②主幹会、教務会の内容を充実することで教職員が自ら学校運営にかかわっていただけるようにする。③学年経営のチーム力向上のために、一部教科分担制を取り入れ、教材研究の充実、校務の効率化を図る。
人材育成・ 組織運営(働き方)					
担当	教務部・メンターチーム				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">地域学校協働活動</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>生活総合部・教務部</td> </tr> </table>	地域学校協働活動		担当	生活総合部・教務部	①「横浜の時間」や生活科で、地域や地域の方々とかかわる活動を取り入れることで、まちへの愛着心を育てていく。②地域コーディネーターと連携し、学習を地域の方に支援していただくことで、地域の人とのつながりを意識できるようにする。③登下校の見守りを地域の方と一緒に実施し、安全対策の充実を図る。
地域学校協働活動					
担当	生活総合部・教務部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">児童指導</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童指導委員会</td> </tr> </table>	児童指導		担当	児童指導委員会	①毎月の職員会議内で児童指導について共有する時間を設定し、各学年ごとに児童の記録をまとめ、グループウェアで共有して、共通理解を図り、組織的に対応する。②不登校や登校渋りがある児童について、児童や保護者に寄り添い、それぞれの児童にあった登校支援アプローチをしていく。
児童指導					
担当	児童指導委員会				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">特別支援教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>特別支援部・特別支援コーディネーター</td> </tr> </table>	特別支援教育		担当	特別支援部・特別支援コーディネーター	①配慮を要する児童が一般級でも個別支援級でも安心して学校生活を過ごせるよう職員研修等でインクルーシブ教育の理解を深め、チーム力向上を図る。②人権朝会や学級指導の中で個別支援級と一般級のつながりを大切にすることを養う。③特別支援教室担当者や担任との連携を図り、個に応じた指導が充実するように学習支援体制をしっかりと構築する。
特別支援教育					
担当	特別支援部・特別支援コーディネーター				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;"> </td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td> </td> </tr> </table>			担当		
担当					